

【巻頭言】

総合情報処理センターの未来

工学部 情報知能工学科

総合情報処理センター 副センター長 上原 邦昭

- 「我らがセンターの見放されない為の 7 箇条」 [1]、
- 「Internet 時代に大型計算機センターの未来はあるのか？」 [2]、
- 「更に充実したネットワークのもとでの大型センターに期待する !!」 [3]

何とも週刊誌的、かつ過激なタイトルが列挙されているが、これらのタイトルはいずれも全国共同利用施設である 7 大学の大型計算機センターの最新ニュース（広報）記事の一部である。このように、我々の計算機環境は昔と比べて大きく様変わりの様相を呈している。

従来ならば、汎用の大型計算機をセンターの一室に鎮座させ、端末用あるいは教育用と呼ばれるパソコンを大量導入すればセンターの役目を達したといえるが、今日のように、研究室にある程度のスピードを持つワークステーションが複数台導入されるという状況になると、ユーザがセンターに目を向けなくなるのは当然である。いわく、「よほど早い計算機でなければ、遅くとも研究室で自由にワークステーションを利用できる方がよい」、「情報処理センターの計算機には魅力を感じない」などの意見が聞こえてくる。

現在、我が総合情報処理センターでも次期リプレースに向けて、機種検討をスタートしているが、このようなユーザの要求をいかに実現するかが今回の大きなテーマとなっている。

まず第一に考えなければならないことは、昨年度導入された神戸大学情報ネットワークシステム KHAN との有機的な接続である。すなわち、高速ネットワークを中核としたインテリジェント分散型コンピュータシステムとしてのネットワークコンピューティングをいかに実現するかを考えなければならない。このためには、分散型コンピュータの超高速ネットワーク（ギガバイトレベル）による相互接続についても検討すべきであろう。

つぎに、研究室のワークステーションから総合情報処理センターのコンピュータ群へのシームレスコンピューティングをどのようにして実現するかについても検討しなければならない。研究室によって利用するコンピュータ資源が異なる以上、マルチプラットフォーム化、マルチ OS 化についても検討の対象となるであろう。

また、マルチメディア情報処理による神戸大学からの情報発信、地域ネットワークとの連携についても考慮しなければならない。マルチメディア情報処理を推進するためには、センター内にマルチメディアスタジオを設置する必要も生じるだろう。さらには、新機種導入時には既存のデータベースとの整合性についても注意を払わなければ、大学業務に支障をきたすであろう。

このように、総合情報処理センターの次期機種決定は神戸大学全体の未来と大きく関わってくる。これらの検討課題を解決するためにも、センター利用者、大学関係者各位の御協力とご支援を切にお願い致します。

このような原稿を書いている最中に、急に今年度の第一次補正予算として、情報ネットワークのための予算がついたとのニュースが飛び込んできた。次期機種決定は KHAN に続く新たな情報ネットワークとの整合性についても考慮しなければならない。総合情報処理センターの未来はまだまだ広がりそうである。

参考文献

- [1] 北海道大学大型計算機センターニュース, Vol.26, No.4 (1995) .
- [2] 東北大学大型計算機センター広報, Vol.28, No.1 (1995) .
- [3] 大阪大学大型計算機センターニュース, Vol.24, No.4 (1995) .